資料－１

第６回会議後のアンケートによる委員から意見等

第１　施設の老朽化等について

（意見）

●老朽学校の長寿命化・処分の取捨選択を早期に実施し、長寿命化選択の学校は、児童・生徒・先生が安心・安全な学校生活が送ることができる施設内容に改修する。

特に、命や人権にかかわる体育館の空調設備設置、児童・生徒・先生が必要とするトイレなどは、早期取組の必要性を報告する。

●処分対象となった学校は、旧尾崎小施設のように、公民館・地域交流館・市民活動センター、ＮＰＯなど、公共施設として補強・改修し、市民への文化・教育施設等として活用する。

維持・管理費用は、施設利用費・駐車料金（いずれも民間活用可）等、適正な料金設定で徴収する。

●地域に住んでいる者として、正直にいうと、避難所がどのくらい安全なのかがわからないが、いざという時は信じて避難するしかない。

●老朽化が進んでいる施設については、他校との統合も視野に入れていくことも必要である。

第２　防災機能について

（意見）

●第６回検討委員会会議資料２中、（３）教育環境の視点による防災機能で「避難所に求められる防災機能のうち、平素の教育環境としても必要な機能」抽出項目の「未改修・未設置・未整備Ｊの項目は、早期対応が必要と思われ、担当部局と連携を図り、伺検討委員会の中間報告により早期に整備できるよう、市側による優先項目の序列分け２年以内、５年以内等の期限設定により整備実現を目指していただきたいと考える。

●小中学校の防災機能の状況として全ての小中学校にあったのは避難所（指定避難所又は指定緊急避難場所）のみとなっているが大丈夫なのか。

●体育館へのクーラー設置は早急に対応すべきである。

●防災機能を充実させることは重要であると考えるが本検討員会で話し合うことなのか。

第３　学校跡地の取扱いについて

（意見）

●阪南市の全学校から見た総合的跡地の取扱い（案）
阪南市小中一貫（小・中の敷地・建物は、分離式可）モデル校（校舎（敷地内含む。）内に市全体の防災機能強化を兼備えた市独自の学校）の用地する。一貫校は、そのメリットを最大限に引き出せるモデル校（児童・生徒づくり（人間形成・学力向上をめざす。））の実現から魅力ある阪南市づくりにつなげる。

●元々は子どもたちが過ごす場所だったので、遊び場所も減ってきているなか、子どもたちにとって意味のある施設ができると良い。

●本検討員会で話し合うことなのか。市民から広く募集してはどうか。

（課題）

●入学希望者の選考方法、小中一貫校の利点をより一層理解し、実践できる先生の配置や通学手段の確保（スクールパスの運用方法）。学校跡地ごとの検討の実施阪南市民病院を例に維持管理・運営等を民間の資金や経営・技術的能力を活用した高齢者施設（阪南市民優先）等を誘致し、市民への福祉向上、人口・市収入増につなげるなどとし、活用方法を見いだせない場合は、売却処分を検討する。

第４　校区と通学について

（意見）

●校区に関して、登下校の安全を保てるのであれば地区・自治会などを基準に距離のことを考えながら再編成しても良い。

●上荘小学校は、地理的にみて西鳥取小学校か尾崎小学校と統合して上荘小学校は学校へ行きにくい子どもたちのために使う拠点校にしてはどうか。

●統合によって通学距離が遠くなる場合はスクールバスの導入も必要である。インターネットを活用したオンライン授業のシステムを早急に確立してほしい。

●通学とオンラインを組み合わせた学校のしくみを考えることで校区と通学についても内容が変わるのではないか。

（課題）

●急に変更すると、その年の子どもたちはいきなり友だちが変わることとなるので合理的配慮（元の学校も選択できる）が必要になる。

第５　留守家庭児童会について

（意見）

●働く親を支援するためには必要な制度である。

●今後、更に共働き家庭が増えて必要となるので充実させていくべきである。

●職員の待遇などを改善してよりよい人材を確保することが求められる。

（課題）

●人手不足がどこでも問題である。

第６　財政（国の補助制度の活用）について

（意見）

●限られたお金を何に使うかを吟味しないといけない。先生やＩＣＴを必要としているならそれに使うべきである。

●担任や児童生徒に聞いた方が、意味があるものになる。例えば、児童生徒が教室備品を望むならそれに使うべき。

●詳しい内容は、難しいので判断できない。この委員会ではもっとソフト面を重視して話し合いたい。